



▲ 華やかな踊りで祭りを彩った女子学生チーム(大漁踊り)

若さで盛り上げる

石巻川開き祭り

7月31日、8月1日に開催された「石巻川開き祭り」に延べ289人の学生、教職員が参加。若さあふれるパフォーマンスで夏を彩るイベントを盛り上げた。本学では昨年度から8月1日を地域貢献日に設定。学生と教職員からなる推進組織「地域貢献日活動プロジェクト」を設置し、5月中旬から参加者を募集した。

【7月31日】
△孫兵衛船競漕(学生24人、教職員19人)

人々2チーム、教職員19人、教職員11人(チーム)の応援を受けて、一般孫兵衛船競漕にボランティアアサークル「ひだまり」と教職員の2チームが、ミニ孫兵衛船競漕に剣道部の女子部員たちが参戦し、熱戦を繰り広げた。2日目は、前夜に行われた花火大会の花火くず拾いのボランティアに学生35人、教職員20人が参加した。

学生会長鈴木健二さん(経営3・宮城県クラーク記念国際高)は「昨年以上に多くの学生が参加し、猛暑の中、各出物で力を発揮してくれました。石巻地域の大学生として、川開き祭り以外でも地域を盛り上げる方法を考えていきたい」と話した。



▲ 3位入賞に沸く体育会チーム(大縄引き大会)

代表電話番号
**0225
(22) 7711**
広報専用FAX
**0225
(22) 7809**



▲ 日和山公園(石巻市)で

温州大からも短期研修生10人

国際交流協定校である温州大学(中国浙江省)で5回目となる。研修生は7月12日から20日までの日程で行われた。研修生たちは、坂田隆学長による講話をはじめ、日本語や音楽、東日交流協定を締結。10年がら交換留学生プログラムがスタートし、夏期短期

研修生の受け入れは今年で5回目となる。研修生は7月12日から20日までの日程で行われた。研修生たちは、坂田隆学長による講話をはじめ、日本語や音楽、東日交流協定を締結。10年がら交換留学生プログラムがスタートし、夏期短期

成果を発表

共創研究センター(石巻専修大学共創研究センター(中込真二共創研究センター)の成果報告会が7月23日に開かれた。2014年度に実施された7つの研究プロジェクトの代表者が研究概要と成果を発表した。2、3年目を迎えた継続研究に加え、「メディアミックスによる地域活性化手法の構築」(代表者 井井道晴経営学部准教授)が採択され、研究

ランドルフ・メーコン大学との交流事業

第1弾 研修生4人が来学



「テイラー・アンダーソン記念基金」の支援を受け、学生の相互派遣を柱としたランドルフ・メーコン大学(米国バージニア州)との交流事業が今年度からスタートした。第1弾として7月18日から24日まで、同大学の学生4人と指導教員が来学。東日本大震災に関する調査・研究と、9月に本学から派遣される学生らと交流を行った。19日には和楽器演奏グループ「Ms. Janggu Orchestra」によるワークショップ、派遣学生も参加しての歓迎会、坂田隆学長の特別講話が実施された。22日の山本憲一理工学部教授による「東日本大震災の津波による自動車災害」の特別授業では、活発に意見交換がなされ、研修生の意識の高さをうかがわれた。また、交流事業での意見交換や石巻市内の行政機関での調査も行われた。

復興ボランティア学EXPO2015を開催

ワークショップ・シンポジウム



は「自分ごととしてのボランティア」。前半は一般社団法人「NPO」の吉村誠司氏による基調講演で、吉村氏のボランティア経験から、「考え込まずに、行動を起こすこと」というメッセージが伝えられた。

前期に開講された総合科目「復興ボランティア学」の締めくくりとして、「復興ボランティア学EXPO2015」が7月25日に開催された。学生、市民に加え、同日行われたオープンキャンパスに参加した高校生ら延べ260人が来場。4号館でワークショップ、5号館でシンポジウムが実施され、復興に向けた取り組みが紹介された。

開放講座が終了

「オリンピック・パラリンピックを知ろう」を統一テーマに、6月から全7回にわたって開講されたみやぎ県民大学「石巻専修大学開放講座」が終了した。全講座の3分の2以上を受講した49人に、杉田博史氏から修了証が手渡された。前回の東京五輪で使用された聖火台が石巻市に